

ほろいずみニュースNo.142

発行:えりも町郷土資料館ほろいずみ・水産の館 発行日:令和元年6月4日
〒058-0203 北海道幌泉郡えりも町字新浜207番地
TEL:01466-2-2410 E-mail:erimomus@cocoa.ocn.ne.jp
<http://www.town.erimo.lg.jp/horoizumi/>

第1回生き物調査隊事業 ～悲恋沼調査～



今年度最初の生き物調査隊事業は、悲恋沼周辺での昆虫採集と水生生物調査でした。

暖かい日でしたが、昆虫採集には少し早く、キャンプ場のバンガローの下で、アリジゴクの観察。



悲恋沼では水生生物調査。暖かい日が続いたためか、昨年よりも、メダカがたくさん確認されました。他にもオタマジャクシやミズカマキリ、ミズスマシなどが見付き、初確認の種も捕獲しました。



午後からは、捕まえた昆虫類を標本にする作業。1匹1匹展足(標本にするための固定作業)しました。

昨年度から参加してる子どもたちは、展足も慣れたもので、自分一人で作業を進めていました。



最後に、悲恋沼で捕まえた水生生物を資料館に展示する作業。

水槽を用意し、「ミニ悲恋沼」の展示をしました。

メダカが群泳する姿や、メダカを狙うゲンゴロウの幼虫、ミズカマキリを見ることができます。

アイヌ語de動植物⑳ ～ ヨモギ ～



ヨモギはキク科の植物で、目立たない花が咲き、ほこりのように軽い果実がたくさん実ります。根は越冬し、毎年繰り返して生育しながら群落になります。

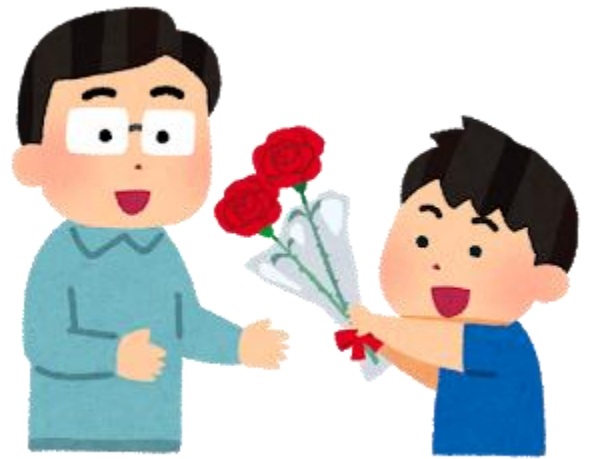
北海道のヨモギ類は20種以上に生育しますが、その中でオオヨモギが最も普通に見られます。食用の他に薬用としても利用されますが、猛毒のトリカブトと似ているため、注意が必要です。

アイヌ語では「ノヤ」と呼ばれ、アイヌの人々は、ヨモギはこの世に最初に生えた草と考えられ、とても霊力（神の力）が強い草とされています。このため各地で食用や魔除けとして、茎は魚をほすときの串として利用されました。

参考:

『アイヌ語で自然かんさつ図鑑』(帯広百年記念館)
『アイヌ語の動植物探集』川村正一編11

◆ 父の日 ◆



日本で「父の日」が一般化されたのは「母の日」より早い昭和28年頃ですが、世界では「母の日」の方が早く、「母の日」があって「父の日」がないのは片手落ちという意見があり、1910年に父に感謝するパーティーが開かれたのが「父の日」の始まりとされています。一般化したのは1934年に父の日委員会が設けられて6月の第3日曜日を「父の日」と定めてからです。

母の日にカーネーションを贈るのに対し、父の日にはバラの花を贈ります。バラの花言葉は「尊敬と愛の情熱」です。



6/1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月
○	○	体験 陶芸 教室	休館日	○	○	○	○	○	○	休館日	○	○	○	○	○	○
18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	7/1	2	3	4
火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木
休館日	○	○	○	○	○	○	休館日	○	○	○	わら しゃんど 事業	○	○	休館日	○	○

6月～7月の
開館カレンダー